

明けまして



市長
小畑 元

謹んで新年のお喜びを申し上げます。

昨年は、大館周辺広域市町村圏組合のPFI方式によるごみ処理事業が動き出し、中高一貫教育校の造成工事も始まるなど、様々な課題が解決し、方向性を見いだした思い出深い1年となりました。

また、市民の皆さんにとりましては、衆議院議員、県議会議員、市議会議員そして市長選挙において、さらに市町村合併などで、10年、20年先を見据えた今後の進むべき方向について重要な決断を迫られた年でもありました。

特に合併の論議では、様々な財政推計を分析し、将来のあるべき姿を検討したところ、いろいろなことが分かりました。その中の一つが「極端な人口減と超高齢化社会」が待ったなしに到来するということです。

それと同時に、合併の枠組みがどのように変化しても、大館市が地域の中核都市として果たすべき役割が非常に大きいものである、ということを感じました。企業立地が進む二井田地区工業団地を始めとして、健康産業と環境産業では、大館市民のみならず、地域の皆さんも従業員として新規雇用されています。県で計画している中高一貫教育校と4年制へ移行計画している桂城短期大学、職業能力開発短期大学校には、地域一円から学生・生徒が集まってきます。市立総合病院は、地域の急性期医療の提供を果たし、県北部老人福祉総合エリアでは地域福祉をカバーし、大館樹海ドーム・大館市民文化会館では各種イベントが開催されるなど、いずれも地域住民にとって必要不可欠なものです。今後も、産業・教育・医療・福祉・文化のそれぞれの機能において大館がリーダーシップを発揮し、この地域の発展のために頑張っていかなければならない、と改めて決意した次第です。

迎えた本年は、市町村合併もいよいよ法定協議会設立に向け正念場を迎えます。大館を含めこの地域の輝かしい未来を築きあげるため「持続可能な街づくり」を、皆さんとともに今後も推進してまいりたいと考えておりますので、なお一層のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。